

博物館に
行ってみよう!

もっと知りたい!! 千葉のおもしろ博物館



くまのきりりくまのきりり

第8回

館山市立博物館 (館山市)



インタビュー

“中の人”に
聞いてみました

里見氏と八犬伝、歴史とファンタジー を堪能できる自然の中の博物館

館山市立博物館は、10代170年に渡って安房の地を支配した里見氏をメインに、海との関わりのなかで展開してきた房総半島の歴史を紹介しています。

城山公園内にある当館は、本館と館山城（八犬伝博物館）からなり、地域の歴史や文化を伝えるとともに、『南総里見八犬伝』に関する展示を行っています。

また、海の近くには分館の渚の博物館があり、こちらでは館山をはじめ房総半島各地の海と生活に関わる多くの資料を展示しています。

館山城は、遠くからもその美しい姿を眺めることのできる天守閣ですが、実は里見氏が建てたお城というわけではありません。現在の天守閣は1981年に「天守閣型のお城が欲しい」との市民からの要望、署名運動がきっかけで作られたもの。ただ、里見氏が建てたお城についての資料は無かったため、同規模・同時代のお城である福井県の丸岡城をモデルに地域のシンボルとしてこの美しい天守閣が作られ、こちらは『南総里見八犬伝』のための展示施設となりました。当館では、里見氏の本物の歴史と、里見氏をモデルにした創作としての八犬伝の両方を楽しんでいただくことができます。

館山城では『南総里見八犬伝』に関するドラマや本などを始めとした八犬伝ファン必見のさまざまな資料の展示を行っています。特に物語の原作者である江戸時代の文豪、曲亭馬琴きょくてい ばきんが著した大作『南総里見八犬伝』の版本や八犬伝の登場人物、名場面を描いた錦絵など庶民に親しまれた各種資料によって夢とロマンあふれる八犬伝の世界を堪能することができます。

本当の里見氏の歴史と、物語の中の里見氏、その違いを発見するのもこの博物館の楽しみ方の1つです。

四季折々、美しい変化がみられる城山の自然に囲まれたこの施設に散策を楽しむつもりでぜひお越しください。



館山市立博物館
学芸員 宮坂 新さん

館山市立博物館とは？

館山市立博物館は、戦国大名里見氏の居城跡である城山公園内に設立された、郷土の歴史と民俗の博物館です。

史実の里見氏をメインに、安房地方の歴史や民俗資料を展示している本館、『南総里見八犬伝』に関する資料の展示をしている館山城（八犬伝博物館）、房総半島各地の海と生活に関わる資料を展示している渚の博物館（館山市立博物館分館）に分かれています。

丘陵地の城山公園には日本庭園などもあり、見事な景色も見ることができます。



館山城天守閣からの絶景

山頂にある館山城、その最上階は展望台となっており、館山市の姿や館山湾が一望できます。東西南北それぞれに案内図が設けられ、何が見えるのか教えてくれています。快晴ならば富士山の姿も見ることができます。

館山市立博物館は 楽しめる3つの博物館

館山市立博物館は3つの展示施設に分かれています。

まずは本館。1階は歴史展示室で戦国大名里見氏の歴史をはじめ、館山地域の縄文時代などの原始・古代から江戸時代までの歴史が紹介されています。2階は昔の暮らしや民家などを紹介する民俗展示室と企画展示室になっています。

次に、城山公園山頂の天守閣にある館山城（八犬伝博物館）。地域のシンボルということもあり、大人気スポットとなっています。

年間5万～6万人の方々が本館・館山城を訪れますが、その9割が観光客。これは館山市の人口（約4万2千人）よりも多い数字です。

そして本館から車で約5分。海辺にある「渚の駅」たてやま」内にあるのが分館の渚の博物館です。



▲錦絵「城ヶ島合戦」



▲里見氏に抵抗していた土豪の吉原玄蕃助が持っていたとされる太刀と槍。



▲館山市坂井・翁作（おきなさく）古墳で出土した環頭大刀、圭頭大刀とその復元模型。



▲2階、民俗展示室には市内の畑地区にあった300年前の分棟型民家が再現展示されています。

館山城（八犬伝博物館）

城山公園内にそびえ立つ、三層四階天守閣様式の館山城（八犬伝博物館）は『南総里見八犬伝』の版本や錦絵などが展示され、夢とロマンあふれる世界感が人気のスポットです。里見八犬伝の世界を楽しんだ後は、天守閣最上階から最高の景色が堪能できます。



▲館内は回廊状に順路があり、左右に沢山の里見八犬伝ゆかりの品々が展示されています。



▲取材時に行われていた、「南総里見八犬伝 浮世絵展」の作品。南総里見八犬伝の登場人物や名場面が描かれています。

●問い合わせ／館山市立博物館 本館

館山市館山351-2 城山公園内 TEL.0470-23-5212

渚の博物館（館山市立博物館 分館）

分館である渚の博物館では、房総の漁業や漁民の生活を紹介しています。重要有形民俗文化財「房総半島の漁撈用具」や、大漁を祝って仕立てた美しい着物「万祝」など、房総の人々の生活の様子が感じられる展示が充実しています。



▲関西から房総へ伝わった地引網漁の様子を再現したジオラマ模型。当時の漁業の活気まで伝わってくるようです。



▲常設展示室には潜水漁を行う海士（あま）の姿を再現した原寸大のモデルも展示。昔の漁業や漁師の生活について知ることができます。

すごい!このホンモノを見逃すな!

曲亭馬琴 版本『南総里見八犬伝』

これ見て!



館山市の人気スポット、館山城(八犬伝博物館)には『南総里見八犬伝』ゆかりの品々、作品が数多く展示されています。この『南総里見八犬伝』が書かれたのは江戸時代のこと。文豪曲亭馬琴が28年もの年月をかけて著した全106冊の長編小説で、中国文学の影響を強く受けた空想的な小説になっています。

戦国時代に現在の館山市がある安房の地で活躍した里見氏を題材にしていますが、事実ではなく曲亭馬琴によって創作された物語です。

物語は、里見義実が、安房へ落ち延びる場面からはじまります。

安房国滝田の城主になった義実^{やっふさ}は、愛犬八房^{かげつら}の助けによって敵将安西景連を討ち取ります。八房は褒美として伏姫^{ふしめ}を連れて富山の洞窟^{かなまり だいつけ}にこもりませんが、伏姫の許婚の金碗大輔の手によって鉄砲で撃ち殺され、伏姫も自害してしまいます。

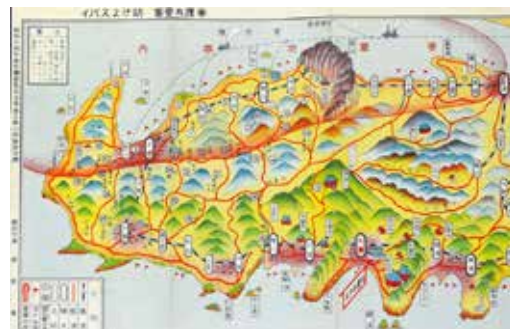
このとき、伏姫が持っていた護身の数珠から八つの玉が八方へ飛んで、仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌の霊玉を持つ八犬士に。ここから壮大な物語が始まります。

ここで106冊の内容を語り尽くすのは難しいのですが、館内にはこの物語にまつわる資料の展示や記念品も多数販売中。ファンにはたまらない空間になっています。

企画展も見てみよう!

このようなテーマ展示もやっています

館山市立博物館では、年3回の企画展を開催しており、それ以外の時期にはテーマ展示を行っています。



【戦後80年企画展「東京湾要塞と館山」】

2025年8月2日から10月19日まで、本館で開催しています。

多くの軍事施設が設置された館山の戦時下の人々の暮らしを地域に残された歴史資料から紹介しています。



【テーマ展示「関東大震災と館山」】

2023年に発生から100年という節目に合わせて開催した企画展「関東大震災と館山」の一部を紹介しています。

《もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館》今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第8回をご覧ください。



今回誌面でご紹介した、館山城(八犬伝博物館)に展示されている『南総里見八犬伝』、その原作者は誰でしょうか。次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① 金原亭馬生
- ② 三遊亭金馬
- ③ 曲亭馬琴

取材協力・撮影協力・写真提供／館山市立博物館、館山城(八犬伝博物館)、渚の博物館(館山市立博物館 分館)

プラスαで、未来とともに。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌

検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント

@keiyobk_official



X 公式アカウント

@keiyobkofficial



正解は→③ 曲亭馬琴

2025.8
(次回発行予定/
2025年9月19日)